

ていばーく所蔵資料紹介

エンボッシング・モールス電信機



安政元年、日米和親条約締結のために2回目の来日を果たした米国遣日使節ペリーが、米大統領フィルモアから将軍家定への贈答品の一つとして持参したモールス電信機で、外箱中央の真鍮板にはFor the Emperor of Japanと彫刻してあります。

ペリーは、電線や電池など装置一式を持参しており、横浜の応接所から9町（約1km）の間に電線を架し、通信実験を行いました。

その後、明治維新により新政府が接收し、東京帝国大学の所蔵を経て、明治43年に当館の所蔵となっています。

この電信機は、我が国の電気通信史上原点となるものであり、また、近代外交史上意義深い資料でもあることから、平成9年6月に、国の重要文化財に指定されました。